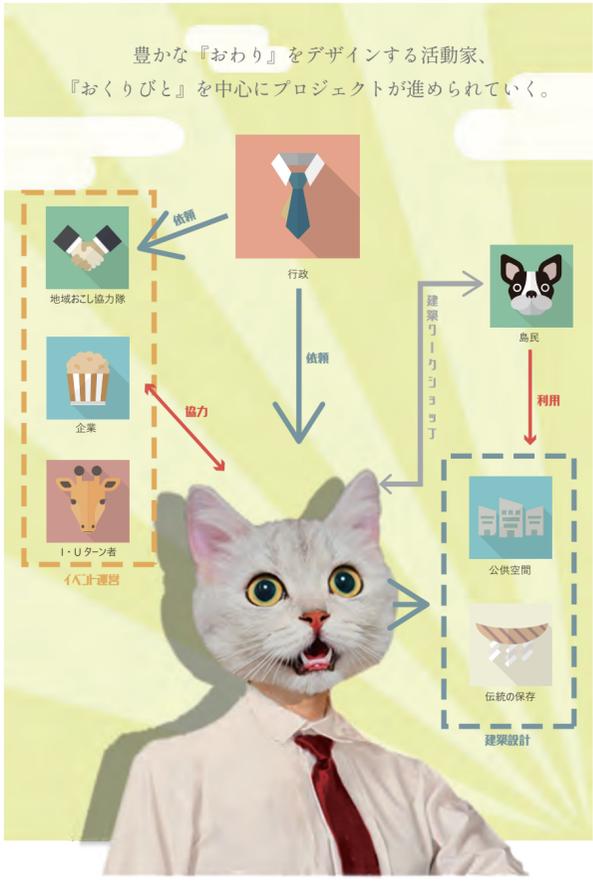
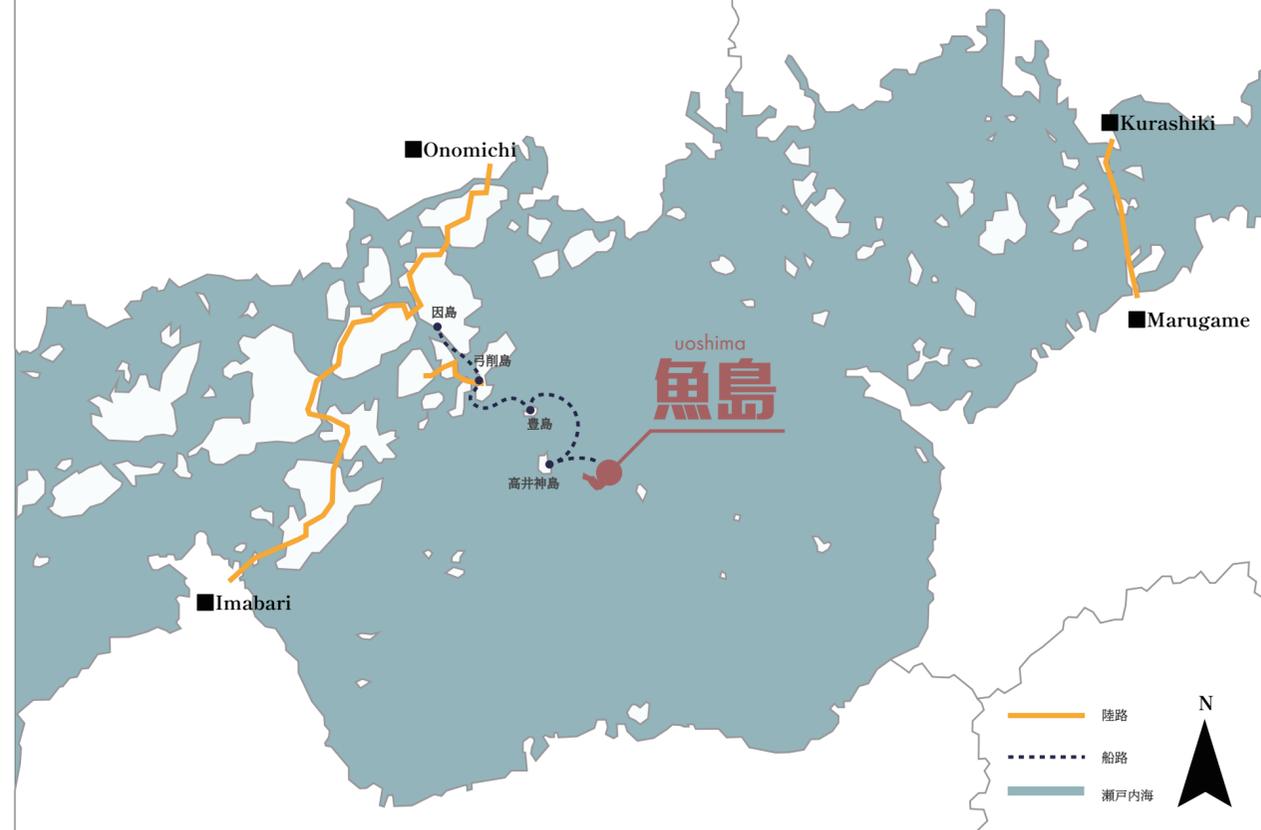


# 島 しまいの物語

—豊かな離島の終わり方—

愛媛県上島町魚島を舞台に、終わりゆく離島の姿を描いた、  
離島振興法の適用をうけ、開発された空白のビル群を解体しながら、島の風景を彩っていく。

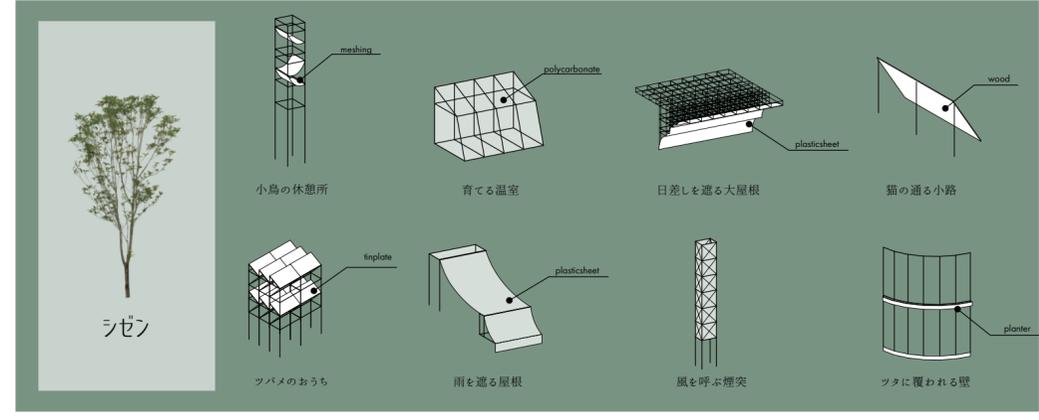
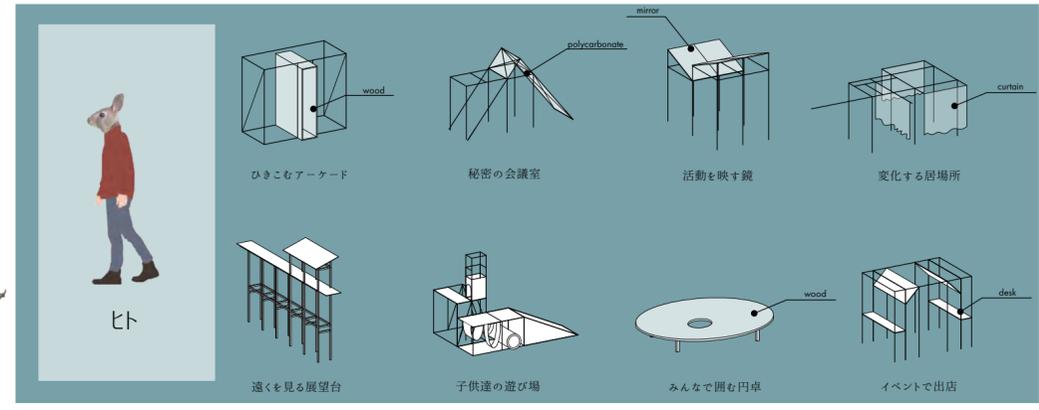
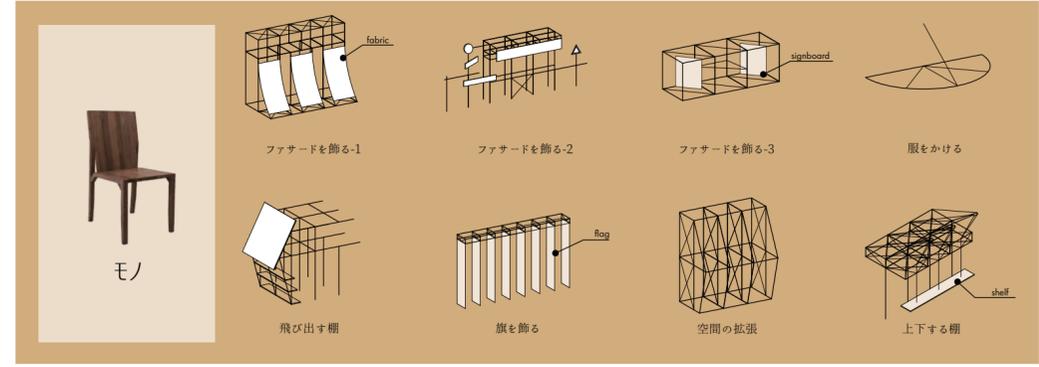
この島に、豊かな終わりが訪れることを願って。



## concept diagram

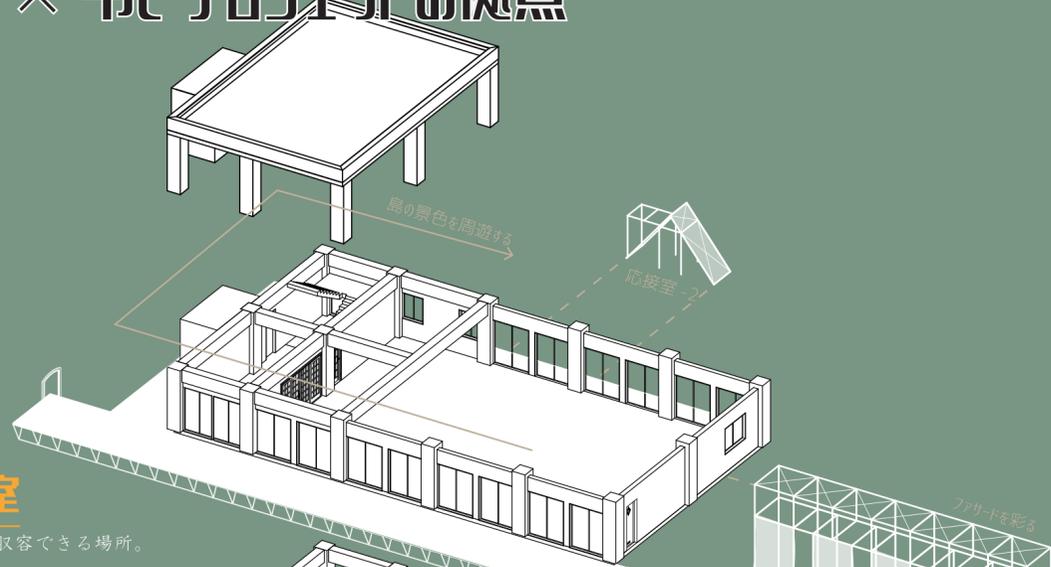


閉鎖的な公共空間の背後には、  
島の人たちがのこした生活の跡で賑わう雑多な空間が広がっていた。



# 開発センター × 吊いプロジェクトの拠点

6F

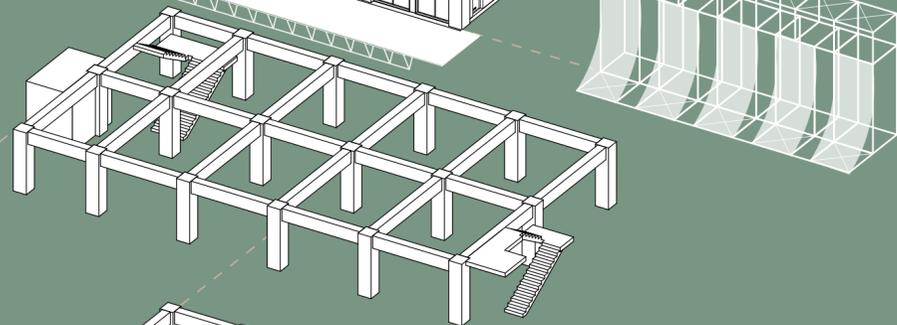


島の景色を周遊する

応接室

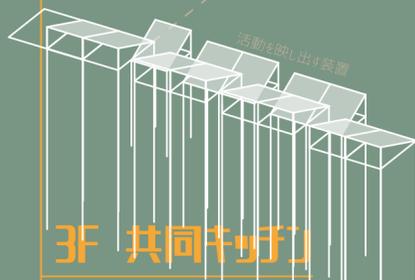
## 5F 大会議室

島内唯一の島民全員を収容できる場所。定期的に島の『おわり』を考えるワークショップが開催される。



アワードを彩る

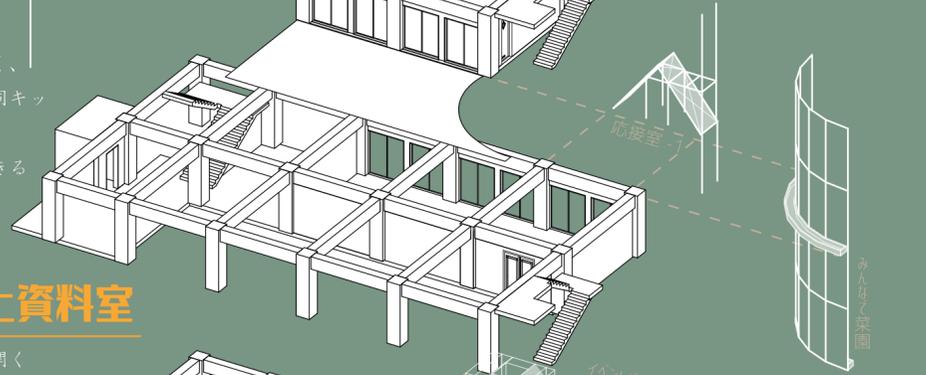
4F



活動を喚起し出す装置

## 3F 共同キッチン

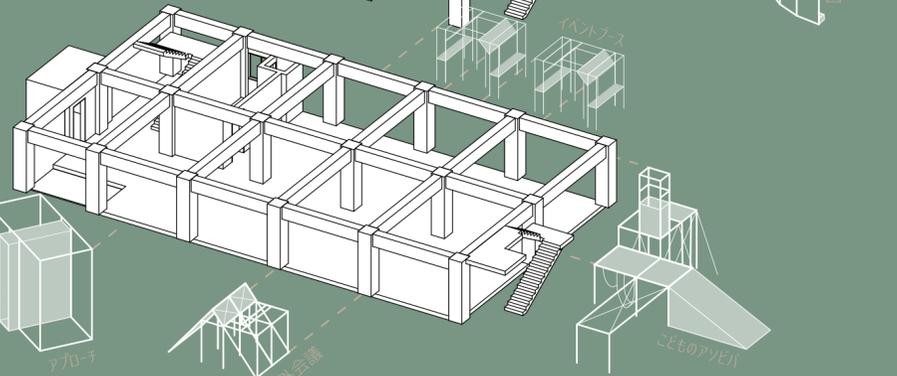
各イベント時に利用されるだけでなく、高齢者の孤食を減らす目的を持つ共同キッチン。海を眺める大きなデッキで食事ができる特等席のような空間。



応接室

## 2F 小会議室・郷土資料室

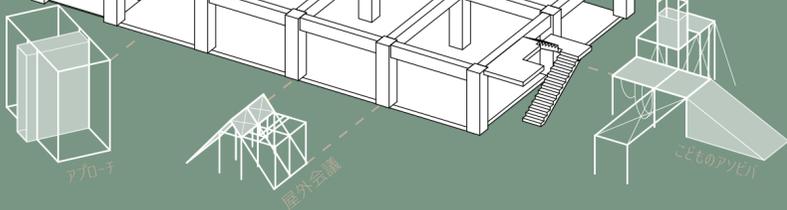
開放されていなかった郷土資料室を開くことで島の歴史を身近に感じる。



インポート

## 1F イベントスペース

大きく開放的なピロティは、吊いイベントだけでなく定期船による島スーパーなどでも利用される。



アワード

屋外会議

こどものアビリティ



3階デッキ 海を眺めながら食事会



1階イベントスペース 吊いイベントに向けた準備

開発センターでは今日も島の『おわり』に向けた準備が行われている。



まずは開発センターをプロジェクトの拠点として計画する。  
ワークショップにより島民に選ばれた仮設空間が建築に付加されていく。



2031年、観光センターの躯体はすでに解体されている。  
島民にとっても思い出深い場所として機能しているようだ。



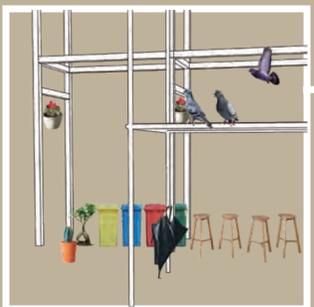
伝統行事のアーカイブ。



みんなて園芸。



シンボルツリーを植えた。



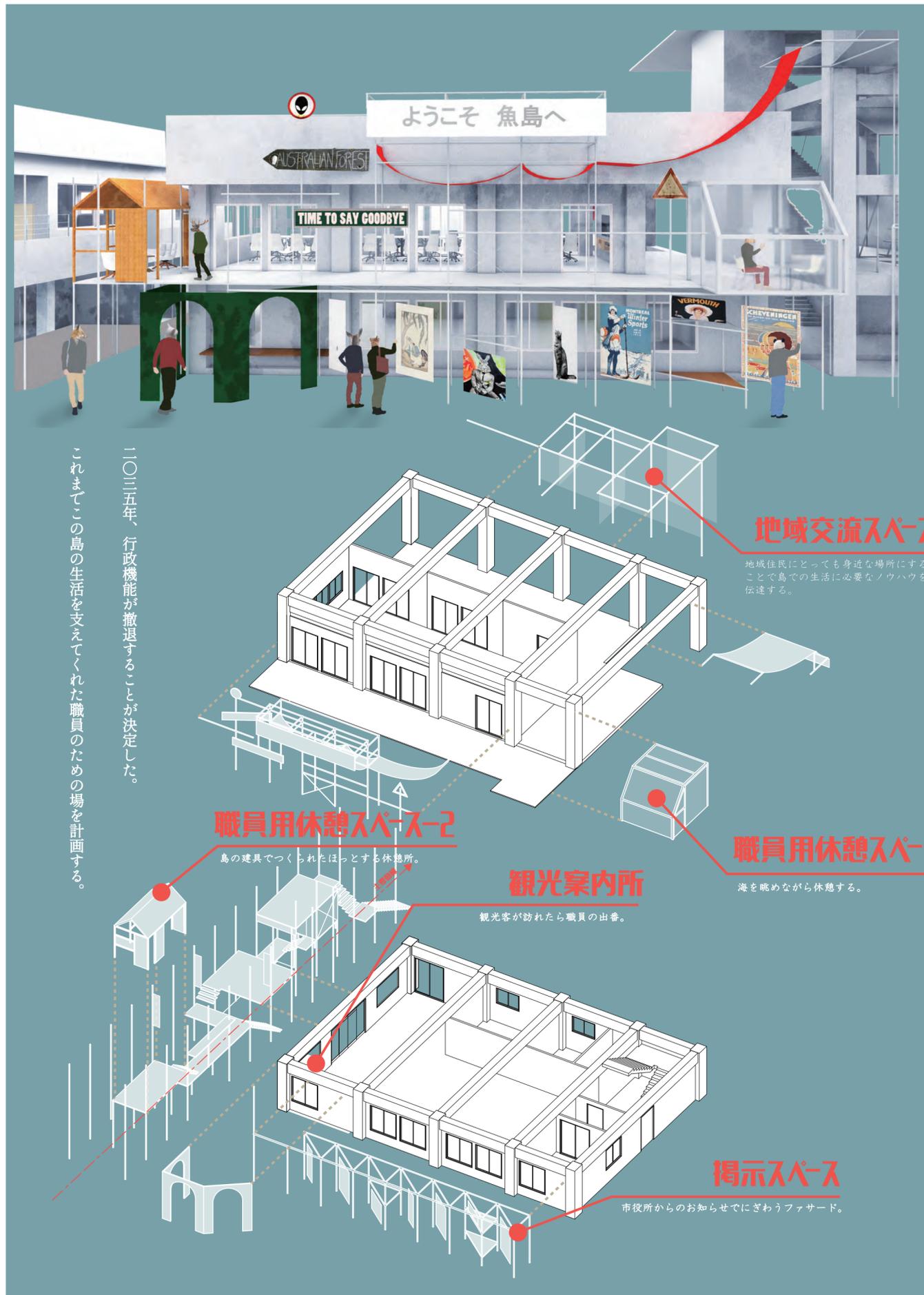
モノが溜まっていく。

観光センターの輪郭



伝統行事を思い出す。

日陰のひとやすみ。



ようこそ 魚島へ

AUSTRALIAN FOREST

TIME TO SAY GOODBYE

**地域交流スペース**

地域住民にとっても身近な場所にする  
ことで島での生活に必要なノウハウを  
伝達する。

二〇三五年、行政機能が撤退することが決定した。  
これまでこの島の生活を支えてくれた職員のための場を計画する。

**職員用休憩スペース-2**

島の建具でつくられたほっとする休憩所。

**観光案内所**

観光客が訪れたら職員の出番。

**職員用休憩スペース-1**

海を眺めながら休憩する。

**掲示スペース**

市役所からのお知らせにざわうファサード。

2022



2023

開発センター × 吊いプロジェクトの拠点



2030

観光センター × 伝統行事のあわり



2035

市役所支所 × 行政のあわり



2060

漁協センター × 漁業のあわり



20xx

とうとう島に人がなくなった。

島の賑わっていた様子や生活が、島の前面に残されている。



### 展示スペース

漁具などの置き場として活用。漁村風景の保存に繋がる。

### アトリイベントスペース

魚島で獲れた魚で朝市などのイベントを開催。島の産業を体感する。

### パフォーマンスステージ

漁師さんのお仕事をより“見える化”。伝統漁法を伝える教室にも

### 生業スペース

デベラ干しや蛸壺など魚島の生業風景がファサードにあらわれる。



scene1 アトリイベントスペース



scene2 展示スペース



scene3 生業スペース

2050年、この島の漁業者もあと少なくなってしまった。  
歴史ある漁村風景もおわりに向かってゆく。